

Caravan ticket

キ ャ ラ バ ン

チ ケ ッ ト

written by yu-ki



何となく 4137km

ヒッチハイクして

日本縦断

パイヤ鈴林も絶賛

『この本で身長が 20cm 伸びました』

ウズベキスタンを中心に話題騒然

caravan ticket / hitchhike story [free&crime]

free & crime

～1日目 試食帝国「熱海」～



ゆき



VV

『俺は心の底からホシキで"ヤリタイコト"ってのは別に無くて、

そんな毎日が多分、心のどこかで嫌だと思ってる。

自分が"ヤリタイコト"を見つけるきっかけを作りたい。

でも探す方法も分かんない。

関係無いかもしれないけど、何かを変えたくて何とな〜く旅に出てみた。』



photo from grand canyon

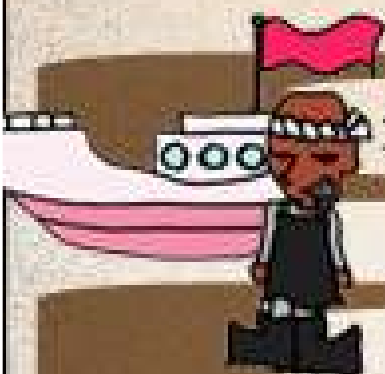
caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

でわ、旅の計画をおさらいしようか。

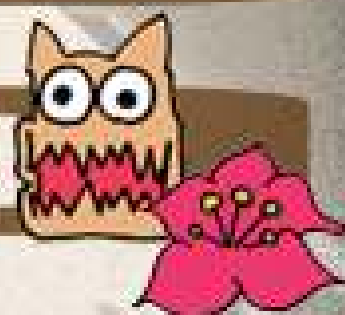
「よくわかるけいかく」



すてっぶ① でんしゃでかごしまへいく



すてっぶ② ぎょせんをひっちはいくする



すてっぶ③ おきなわとうちやく

この計画決定が後に歴史的悲劇を生み出したんだけど（泣）

その頃の俺たちは

鹿児島から沖縄まで漁船が出ているとなぜか信じて止まなかったんだよね。

もう旅に出るって事がめっさ楽しみで。すげバカだよなあ。（笑）

旅のルール

- ① 何事も好奇心を持つ
- ② 出会いを大切にす
- ③ 2択はコインで決める
- ④ ケータイデンプは置いてく
- ⑤ 餅を書く時間を持つ

冒険当日☆

まずは最寄り駅まで母親のマヤに車で送ってもらって、

ゆ〜き『じゃあ、**友達**の別荘（仮）に行ってくるわー』

マヤ『気をつけなさいよ』

って話して旅立ち。（笑）

そして最寄り駅で青春 18 きっぷを購入！

この「青春 18 きっぷ」というネーミングに俺は少し疑問を感じたんよね。

ゆ〜き『18 歳以下しか買えないのか？』

とか思って、調べてみた所。。。。

18 という数字は基本的に「主なターゲットが 18 歳ぐらいの学生です」

という意味みたいで、年齢関係無く購入可能なんだよね。

んでもさ、俺の頼りにしている OK WAVE で調べてみると、

何とも素敵なお返事が書いてあったんだわ。

「18 歳の若者のような心で旅をしましょうという意味です」

この回答を考えた人はきっと詩人、もしくは詩人、あるいは詩人。（笑）

とにかく俺はこのネーミングを気に入ったんだよね。

駅員ののにーちゃんからそんなステキチケットにハンコを押してもらい、

ホームへ向かう。

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

電車を待ちつつ、HYの「Ocean」を聴いてたんだけどさ、この曲超好きで、沖縄への期待がめっちゃ湧いてくるんだよねあ〜。

「Let's go everybody ~♪ Let's go to the love ocean ~♪」

沖縄の海はすげ綺麗なんだろう〜なあ（そして水着ギャル最高！！）

とか考えてると、電車がホームへ到着したんだけどね、

普段、フツーに乗る電車だけど、その時はちょっと遠く見えたんよ。

多分、今回の旅は自分にとって新しい一歩でさ。本音で言えば、

『俺は心の底からホンキで“ヤリタイコト”ってのは別に無くて、そんな毎日が多分、心のどこかで嫌だと思ってる。

自分が“ヤリタイコト”を見つけるきっかけを作りたい。

でも探す方法も分かんない。

関係無いかもしんないけど、何かを変えたくて何とな〜く旅に出てみた。』

って感じだと思うんだよね。とりあえず何かが変わるんじゃないかと。（笑）

だもんで、気持ち的には大海原に冒険に出る、

ゴーイングメリー号的な感じ。（誇張）

もし、万が一、あり得ないが、ゴーイングメリー号を知らない方がいたら速やかにブックオフへ行って、

「お買い得 one piece 全巻セット」を買って読んでちょ。

あなたは人生の半分を損してます。

なんなら one piece を小学校の教科書にしても良い。（笑）

電車に乗り込み、床に俺の荷物を置く。

当時流行ってたエイブのキーホルダー

(流行にのって俺も買ったけど、**4000円**もしたぞ、クソ)

を付けたカリマーのリュック。前夜の準備は超ワクワクしたわ～。

「気の合うダチと自分探しの旅に出る」

っつーのはそれだけで楽しみだったね。

荷物の準備は結構しっかりやったなあ。

明日はどこにいるか分からんし、泊まるトコも一切決めてない。

「ちゃら～へっちゃら、摩訶不思議アドベンチャー」だったからね。(笑)

ちなみにリュックに入れたモノは・・・

- ・ 着替え
- ・ タオル
- ・ カメラ
- ・ 薬類
- ・ 寝袋
- ・ スケッチブック
- ・ ビニールバック
- ・ 日本地図
- ・ お金1万円 (青春18切符代とは別に)

大体そんな感じかな。

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

中でも**スケッチブック**は絵を書くのが好きだったから、

ゆ〜き『各地の絶景で絵を書こう。

その絵を**富裕層**に1万円で売りつけよう。』

とか夢描きながらリュックに入れたんよね。(笑)

後々さ、ヒッチハイクで大々活躍するんだけど、

当初は**車をヒッチハイク**する気なんてさらさら無かったから、

(漁船をヒッチハイクする予定だったからね(笑))

こいつはマジ偶然チョイスだったよ。

あと、持っていったお金が1万円だけってのもキツかったわ。

実際、2週間ぐらい旅してたから、

一日予算が700円ぐらいだもんなあ。(笑)

しかし、それは旅の途中で**なんやらかんやら奇跡**が起きて

解決するんだけどさ、それはまた後の話。

今思えば、掃りの青春18きっぷなんて

持って無かった訳だったから危なかったよ。無謀としか言えないよね。(笑)

そんなこんなで電車で揺られ、横浜に到着！

お互いの家と進行方向を考えて

「旅の相棒 ソノ」との集合は横浜駅にしていたんよね。

あと港の街が出発地点ってのもなんかカッコよくて。(笑)

会った時から二人ともテンション高めでき。

ゆ～き『ういっす☆』

ソノ『おっす☆』

ゆ～き『ついに始まりましたね、ソノさん！』

ソノ『ですね。ケケさん。』

ゆ～き『これから何が起きるんでしょうね？(笑)』

ソノ『全く分かりません。とりあえず、**生きて帰りたいものです。』**

的なね。ついに、ついに二人の旅が始まる～って感じだなあ。

ソノ『携帯置いてきた？』

ゆ～き『もちっす。クレカとかも持って無いよね？』

ソノ『無いっす。**現金底ついたら終わりっす。』**

な～んて、この時点でダークなデスフラグが漂っていたが、

何となく**「ソノと一緒に乗り切れっかな～」**

という根拠の無い自信があったなあ

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

そして、電車に乗り込み、遂に二人の旅が始まる。
1日目の目標は特に決めていなかったんだけど、
とりあえず名古屋あたりに行けたらなあと考えていたっけ。

そうそう、予算が一万円って決まっていたから、
昼飯代を浮かせるべく、熱海付近の観光地に立ち寄る事にしたんだよね。
みんな知ってると思うけど、

熱海周辺は「**試食優遇措置**」が取られている事で有名。(笑)

おみやげ屋の試食で漬物、まんじゅう、せんべい、**焼き魚** ...
が食べ放題。

そんな魅惑スポットをその頃の貧乏ブラザーズが見逃す訳なく、
俺たちは熱海に立ち寄った。



ここはあの有名な・・・

熱海に到着し、歩いているとすぐおみやげ屋の接客が始まって。
最初はおみやげ屋のおばちゃんもニコニコ笑顔でさ

熱海のおばちゃん『あ～ら、そこのカッコいい兄さん、
煎餅一口食っていきなよ』

ゆ～き『イケメンで食いしん坊ですが、何か！？』

と言いながら序盤戦開始。(笑)

最初は先方も買わせる為に積極的に試食を展開してくるんだよね。

ゆ～き『ソノさん、この煎餅最高。5つ星あげちゃう。』

ソノ『けけさん。この串焼き、国宝です。』

とか、最初はフツーに食べてたんだけどさ。

でもまあ、少し時間が経ってくると、先方もおみやげ屋のプロな訳で
「こっちが買う気あんのかどうか??」

を見定めてくるですよ。(笑)

その見定めに乗らないと、急に接客態度が変わり、
会話も一気に減り「帰れムード」が漂うんよね。

試食初心者がつまづくのはココ。

つい、その無言のプレッシャーに圧倒され、店を出て行くケースが目立つ。

案の定、俺達の場合もそういった雰囲気になりつつあった。

しかしながら、「**試食中級者**」の俺たちは次の手を打つ。

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

ゆ〜き『ソノさん、どれにする?? 俺は親に2つぐらい買ってくわ〜。』

ソノ『やっぱ煎餅かなあ。お姉さん（おばあちゃん）!!』

これ、いくらかなあ??』

この「ハリウッドスターなみの迫真の演技」

にて状況を盛り返すんだよね。すると店員さんとのやり取りも、

「コイツら、味見ばかり繰り返して大ッ嫌いだし、人間のクズで

すげバカそうだけど、もしやここに来て買うんじゃない? 」

と思わせたら勝ち。(笑)

すると店員さんとのやり取りも、

熱海のおばちゃん『あ〜ら、お兄さん。じゃあこの漬物が

良いんじゃないかしら? まあ、さっきも試食されましたが。』

ゆ〜き『え〜、味忘れちゃったよん。テヘヘ』

って感じに変化(笑)。んで俺たちは買う様な素振りを匠に演じながら、

一切購入するコトはせず、第二波をむさぼりつくした。

数名の賢い店員にはマークされるものの、複数の店を行ったり来たり、

ちょっと被ってる帽子を変えたりしながら、

店員を翻弄していった。

俺たちは生きる為に諦めなかったのだ。(笑)

1時間後、店員との熱い攻防の後、ゾノは言った。

ゾノ『俺たちの勝ちだ』

店員『参りました。あなたがたは**試食界の巨匠**です。』

と言ったかどうかは知らないが、
とりあえず俺たちの腹は満たされ、
ようやく旅を進める事にしたんよね。(笑)

ちなみに伝説の試食上級者は

「お腹のすかせて泣いている子供を右脇に抱えながら、
左手のタッパーに試食を目一杯詰めて持って帰り、
自宅でゆったり召し上がる」らしい。(誇張)



caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

電車に乗って、車内でさっきの試食に関して

ソノ『いやあ、ケケさんの

あの漬物に対するアプローチは素晴らしかったですなあ。バリバリ』

ゆ〜き『いやいや、

ビッグソノさんの煎餅総取りには我が目を疑いましたよ。バリバリ』

さっきもらった試食の煎餅を食べながら、

ホント無意味な、よいしょ合戦（笑）を続けている内に

気づけば電車は静岡に近づいていたんだよね。

そうそう、そんとき、

地図に「**真富士山**」という謎の山があるのを発見したんだけどさ。

あ、でも書いてて、

あんまり話が広がりそうも無かったから、この話はカット。

そんな真富士山（泣）を横目に、だんだん愛知県が近くなってきたんよね。

ゆ〜き『愛知って割と近いもんなんだね〜。』

ソノ『確かあ〜に』

なんて会話をしていると、

そこに**驚愕のニュース**が俺の中に飛び込んで来たんだよね。

乗客 A 『名古屋を県だと勘違いしてるヤツいるよね～』

乗客 B 『いるいる。きっと、

バカで非常識極まりない**無価値**な人間だよなあ～』

ゆ～き 『(ハイッ、ワタクシです！！ 無価値にて恐縮でございます。)]』

何と名古屋は県ではなく、実は市だというのだよね。

(良い子のみんなは知っているかな！？)

これはリアルに恥ずかしいよね。大学で俺は何学んだんだらう。

穴があったら入りたい。そして2年ぐらいそこでのんびり暮らしたい。(笑)

あまりの衝撃的事象に俺は耐えきれず

ゆ～き 『アイヤっ～』

と中華的に叫んでしまった。

この叫び方は今後、中華キャラとして俺たちの密かなブームになる。(笑)

後にこの「**怪奇 名古屋 県疑惑**」をインターネットで調べてみると

yahoo 知恵袋でもそれを質問している人がいたのでホッとした。

さすが yahoo 知恵袋。俺の様な恥さらしのフォローもしてくれるとは！

さんきゅ～ヤッファー♪

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

中華マンが活躍している間に名古屋に到着。

ゆ～き『やっぱ名古屋は一味違うな！ 味噌の匂いがブンブンするぜ。』

ソノ『ああ、この匂いは味噌カツだな。』

もちろんしないが、名古屋に到着した頃にはけっこ一夜になっててさ。

宿なんて予約してないから、ソッコー寝場所探したよね。(笑)

俺はそんとき、人生で野宿をした事が1回だけあって。

高校時代、ソノ、キム、岡くんと夜公園で遊んでた時、

星を見ようって話になったんよ。んで地面に寝っ転がったんだよね。

キム『まさか、このまま寝ちゃったりしないよな～??』

ソノ『まさか、ありえ～ん』

岡くん『同意～』

ゆ～き『確かあ～に』

って言いながら4人とも寝て、そして朝を迎えたという。(笑)

あん時は夏で超、蚊も多くてさ。皆で起きた瞬間。

キム『オイ、皆起きろ寝てたぞ!!』

ソノ『マジ!? やべえ、超、蚊に刺されてる、最悪。』

岡くん『もう朝?? かゆい』

キム『俺も指されてるわー、かいい。』

ゆ～き『俺も～。超かゆい。』

って言いながら、ホントは俺だけ、なぜか一箇所も刺されていないかった。

「なぜだ!? 蚊よ。体臭も臭く無い方だし、

俺を選んでくれよ、もっと吸ってくれ!!」(笑)

まあ、つまりはそんな経験しかなくて、

野宿出来そうな場所とかも全然分からん訳よ。

当然お金は無いので、夢の漫喫とかにも泊まれないから、
手探り状態で野宿出来そうな場所を探したんだよね。

次の日も電車に乗るコト考えて、

駅から徒歩 5 分以内の優良物件を探してみたんだけどさ、

過ごしやすそうな場所は既に「**先人達**」がいらっしやった為、

ゆ〜き『けっこ一寝場所探すだけで大変なんだな。』

ソノ『ですね。あんま危険そうなトコでは寝たくないし。。。』

とか言いながら、30 分ぐらい街の周りを探し回って、

近くに先人達も寝ている、少し駅から離れた路上で寝る事にしたんだよな。

路上に寝袋を敷いて横になるんだけどさ、

高校の山岳部時代（半年で退部（笑））

買った寝袋がこんなトコで役に立つとはマジ思わなかったよ。

コンクリートが肌にくいこんで若干痛かったなあ。

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

地面の上で寝ようとしたら、俺チキンだから、ふと色々考えちゃってさ。
「何か不審者が襲ってきたら、どうしよう？」

とか

「警察近くにあったっけ！？」

とか

「もし自分の家が無かったら、毎日こんな**不安定な生活**なんだよな？」

とか。。。

臆せず書けば、

「ホームレスの人達は毎日よくこんな生活が出来るな！？」

とも思った。

今まで心のどこかでホームレスを軽蔑したトコがあったけど、
実際、少しだけ同じ目線で物事を考えたら、

毎日この生活を

生き抜いてるのは「すげえ」って思ったよ。

もちろん本人は望んで、その生活になったワケじゃないと思うけどね。
病気にかかったら病院にも行けないし、
何か事件に巻き込まれて死ぬ可能性だってあるし。。。
俺達なんかはめっちゃ恵まれてんだなって感じた。

そんなコト考えながら、目を開けてみたらさ、星が少し出てんだよね。

「ウトウトしながら、ふと目を開けると、
目の前に星が広がってる」

って感覚はけっこう良かったなあ。
まあマンションとか周りにブツブツにあって、
そんな綺麗な景色じゃないんだけどさ。

ゆ〜き『星に囲まれて眠れるってのも、
前向きに捉えれば、良いかしんない☆』

とクサイ事（実際、**体もクサイ**）を思いながら、
2分後、虫にうなされ始めると、もはや星などどうでもよくなり、即眠った。



caravan ticket / hitchhike story [free&crime]

this story continues